

議長あいさつ



議長 佐藤 公敏

新町が誕生して最初の選挙後の臨時議会におきまして、議員の皆様方のご推挙により議長の要職に就くことになりました。このうえなく光栄に存じますとともに、その責任の重大さを痛感いたしております。

行政経験があるとはいえ、新人議員でありますので、合併したばかりの川根本町の議会運営はあまりにも荷の重いものではありませんが、幸いにして人格識見ともにすぐれた中澤智義議員が副議長に就任されましたので、副議長のご助言をいただくとともに、議員の皆様方の絶大なご指導ご鞭撻をいただきまして、この職責を全うしてまいりたいと考えております。

川根本町は、合併したとはいえ人口は一万人に満たない小さな町であります。広大な面積を有し、南アルプスの山々と大井川がつくる美しい景観など多くの魅力を持った町であります。新町建設計画では町の将来像を「水と森の番人が創る癒しの里」とし、豊かな自然とともに、お

茶と温泉を活用した「住んでよし、訪れてよし」のまちづくりを進めようとしております。

財政事情が極めて厳しい時代でありますので、大規模開発は望むべくもありませんが、交流交易の拡大のための道路整備や安全と安心の確保など住民の暮らしを守るための社会基盤整備は関係機関への要望に努めながら進めていかなければなりません。合併したばかりの今は、何よりも住民の皆様方の川根本町への熱い想いをしっかりと受けとめ、皆様とともに地域を創りあげていこうという姿勢を明確にすることが大切だと考えます。

また、様々な障害が待ち構えていることでしょうか、夢の実現を目ざしての挑戦がまちづくりでありますので、そこに喜びを見出し、楽しみながら取り組んでいくという気持ちが大切だと考えます。川根本町での暮らしを積極的に楽しんでいこうという思いを持てる人たちが「水と森の番人」にふさわしいと考えるからであります。

本年は「森と湖に親しむついで」や「全国お茶まつり」も開催されます。この機会を捉えて川根本町の魅力と私たち住民の力を全国に示そうではありませんか。ご指導ご支援の程何卒よろしく、お願い申し上げます。

「かわねほんちよう議会だより」が創刊されますことを、心からお慶び申し上げます。

地方分権の進展と少子高齢社会の到来など自治体を取り巻く情勢の変化に伴い、役場の事務や事業が増大し、果たさなければならぬ役割も多様化してきました。一方で厳しい財政状況のもと、政策に優先順位を付けて実施事業の「選択と集中」を行わなければならぬようになりました。

そういう中で執行機関に対する議会の監視体制、チェック機能、意思決定としての議決権等において議会の果たすべき役割はますます大きくなってきました。今後も町民の代表として、住民のニーズを的確に把握し、議会活動を通じて実現していくことが、より強く求められます。

その架け橋となるのが議会だよりで、住民と議会を結ぶよりよい「議会だより」にしていくかが課題であると思っております。

議会として住民に対する情報公開の場であるとともに、議事内容

を知らせることによって、住民の方々に判断材料を提供することも大切です。議決した議案、議論した内容がその後の施策にどう反映されたか関心が高まり、それが住民の地方自治への参画意識を深めるとともに、地域づくりへの直接の参加を促すような議会だよりであって欲しいと思っております。

川根本町は、まさに小さな自治体であります。より住民の目線で、きめ細かい配慮の行き届いた仕事を行うとともに、役場が地域において多面的な機能を果たしていることを理解しつつも、時代に適合しない部分に投じられたものを、将来に向けて拡大すべき部門に集中していくことが強く求められています。

これからは、それぞれの地域がその特性に合った個性ある施策を実施していく時代です。「豊かな自然環境」や「お茶」と「温泉」、「SL」や「伝統文化・芸能」など地域における有形無形の資源を有効に活用しながら、住む人にも訪れる人にも、魅力ある「川根本町」を創っていくかなければなりません。私たちの町はこうしたいという意思があれば道は開けると思っています。

自分たちの住む所をどんなまちにしたいか、それぞれが考える機会を与え続けてくれる「かわねほんちよう議会だより」であって欲しいとおもいます。



町長 杉山 嘉英

「かわねほんちよう議会だより」が創刊されますことを、心からお慶び申し上げます。

議会だよりに期待する

町長あいさつ